

## 令和4年度第1回多摩市地域包括支援センター運営協議会

### 要点録

#### ○協議会概要

開催日時	令和4年7月27日（水）19時00分～20時00分
開催場所	Web開催
出席委員 (Web)	<p>金 美辰 会長 山崎 雅枝 委員 上野 幸恵 委員</p> <p>浦田 純二 副会長 木下 順夫 委員 村松 啓子 委員</p> <p>(計8名)</p>
欠席委員	<p>新垣 美郁代 委員 小林 正人 委員</p> <p>田崎 博之 委員</p> <p>(計3名)</p>
事務局	<p>保健医療政策担当部長 伊藤 介護保険課長 廣瀬 地域ケア推進係</p> <p>高齢支援課長 五味田 地域ケア推進係長 八木 基幹型地域包括支援センター</p> <p>(計11名)</p>
地域包括 支援センター	<p>西部地域包括支援センター 多摩センター地域包括支援センター 北部地域包括支援センター愛宕支所</p> <p>東部地域包括支援センター 中部地域包括支援センター</p> <p>(計5名)</p>
公開区分	公開
傍聴者	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から無し

## ○議事内容

### 1 はじめに (1) 事務局より案内

---

#### 【事務局】

事務局より出欠確認、注意事項、資料の確認を行う。

### 1 はじめに (2) 挨拶(事務局・委員)

---

- ・事務局、委員、地域包括支援センターよりそれぞれ挨拶。
- ・今年度より、浦田委員が新たに就任。

### 2 報告事項 (1) 令和4年度地域包括支援センター運営協議会スケジュールについて

---

#### 【事務局】

資料2を用いて要点を説明。

- ・今年度も昨年度に引き続き3回を予定。
- ・感染症対策のためWeb会議での実施を予定している。

### 2 報告事項 (2) 令和3年度地域包括支援センター事業実績について

---

(資料3-① 総合相談について)

#### 【事務局】

- ・総合相談の実件数は昨年と比べ約4.7%増加している。要因はワクチン予約の相談などコロナ禍特有の相談件数が新たに増えたことや、高齢者数の増加等が関連していると考えられる。
- ・愛宕支所が昨年9月から開設したため、9月から新たに計上している。ひと月あたりの相談件数は北部包括全体の約半数であった。

#### 【中部地域包括支援センター】

- ・年々相談件数が増加しており、ひと月当たり延べ1,000件の相談があった。
- ・介入が困難なケースも増加しており、本人や家族との合意形成がとれず支援に繋げることに苦慮している。
- ・時間外での安否確認を行うケースが増えており、主に独居の方に対する見守りの役割が重要になってきていると感じる。

(資料3-② 虐待対応について)

#### 【事務局】

- ・虐待対応については認定数が昨年度と比べ12%増加している。
- ・コロナ禍において外出が減り、虐待につながってしまうケースも見られた。

#### 【東部地域包括支援センター】

- ・5件中4件が身体的虐待でそのうち3件が認知症関連のケース。
- ・認知症関連のケースで判断力が低下していることや、家族で介護が必要なケースについては、ケアマネジャーと連携してショートステイの活用や服薬調整を行って対応した。
- ・コロナ禍で認知症関連の相談が増加しており、それに伴う虐待ケースの増加も感じているところ

である。

- ・経済的虐待も一件あり、家族の金銭管理ができていなかったため、必要な医療に繋げることができていなかった。包括が受診同行等することで対応した。

(資料3-② 地域ケア会議について)

**【事務局】**

- ・自立支援に資する事例検討会議であるぐっとらいふミーティングについては令和2年度と比べ感染症対策を行って実施することで回数が増加した。
- ・ぐっとらいふミーティングは開始してから5年が経過しているため、今年度地域ケア会議あり方検討会を開催し、見直しを図る予定である。

**【西部地域包括支援センター】**

- ・認知症のケースや多世代で課題があるケース等様々なケースがあった。共用部分までごみがあふれてしまったり、スーパーで万引きをしてしまうなど苦慮するケースがあったが、関係機関と連携して支援を行った。
- ・認知症の方でも受け入れができるような地域づくりを行っていく必要がある。
- ・後見制度が必要なケースもあり、権利擁護センターと連携して制度の利用まで繋げることができた。

(資料3-② 地区活動について)

**【事務局】**

- ・令和2年度に比べ全体的に実績が増加した。感染症対策のノウハウが蓄積され開催の手法を工夫することで実績に繋がった。
- ・民生委員との地区連絡会については開催に繋がらなかったところも多いため、今年度については地域課題会議との併用開催をするといった工夫をして実施する。

**【多摩センター地域包括支援センター】**

- ・令和2年度に比べてWebを活用することで連絡会等を開催することができ、実績にも繋がった。
- ・民生委員との地区連絡会についてはオミクロン株の拡大の影響で開催ができなかったため、今年度は工夫して開催を目指す。

(資料3-③ その他活動報告について)

**【事務局】**

- ・権利擁護に関する勉強会は実績が伸びなかったため、今年度は対象テーマの拡大や複数の包括で合同開催をするなど工夫して実施する。
- ・介護予防ケアマネジメント業務については全体的に増加。
- ・包括的継続的ケアマネジメント業務は地域課題会議が実績0となった。今年度は民生委員との地区連絡会と併用して開催するなど工夫して実施する。
- ・認知症高齢者への支援として、認知機能が低下した方でも通える通いの場の整備を進めており、昨年度の試行実施に引き続き、今年度は本格実施に向けて準備を進めている。

**【北部地域包括支援センター愛宕支所】**

- ・北部包括は関戸の健康センター内にあったため愛宕地区から離れていたが、愛宕支所が開設したことによって気軽に立ち寄れる機会が増え、地域住民に寄り添えるようになった。
- ・今後も見守り相談窓口や地域の方と協働して、地域の見守り機能を強化していきたい。

(その他意見)

**【委員（権利擁護センター）】**

- ・今後は高齢化や高齢者単身世帯の増加が進行してくることもあり、より一層権利擁護事業の重要性が増してくる。
- ・必要時にいつでも連携が取れるような関係作りを進めていきたい。

**2 報告事項 (3) 令和4年度地域包括支援センター評価について**

---

(資料4-① 評価概要)

**【事務局】**

- ・北部地域包括支援センターと北部地域包括支援センター愛宕支所については合わせて1か所の評価対象とする
- ・評価方法については基本的には昨年度と同様。評価指標数は一部追加削除した関係で、修正をしている。

(資料4-②③ 委託型、基幹型地域包括支援センター評価指標)

**【事務局】**

- ・昨年度は評価時点を明確にしていなかったため、10月31日時点での評価と定めた。
- ・実績があることが前提の評価については、日時や内容等具体的な計画が決定している場合には指標の内容を満たしているものとして取り扱うよう変更。
- ・その他今年度の運営方針や、客観的な評価が難しかった部分を中心に変更。

(資料4-④ 地域包括支援センターアンケート)

**【事務局】**

- ・昨年度と結果を比較するために、質問項目や対象は昨年度と同様とする。
- ・民生委員については匿名での回答とする。

**【委員（民生委員）】**

- ・匿名での回答となり、前回より答えやすくなっていると思う。

以上